

Planning and CoordinationMACHINE TIME EXECUTIONREPORT (2003-6-1 and 2003-6-2 CYCLE)

Experimental Group	T551	Reporter	横山将志
Scheduled Period and Shift	2/28 9:00-2/29 9:00, 3/1 17:00-3/8 9:00 20 shifts	Main, Sub, Para	Para
Experimenters 長谷川、田窪、佐々木、石井、中家、横山、他			
<p>SUMMARY OF EXECUTION AND RESULTS</p> <p>K2K実験の前置検出器として導入されたSciBar検出器の特性を理解するため、実機で用いられているものと同一の検出器・読み出しシステムを用いて作った小型検出器を用いて<math>\pi/p</math>に対する応答を測定した。</p> <p>SciBar検出器は断面が<math>1.3 \times 2.5 \text{ cm}^2</math>のプラスチックシンチレータの棒を積み重ねて作られているが、今回は8本<math>\times</math>32層を積み重ねて（各層はx-y-x-yと互い違いになっている）<math>20 \text{ cm} \times 20 \text{ cm} \times 40 \text{ cm}</math>の検出器を制作し、ビームラインに置いた。検出器の手前にはTOF測定用のプラスチックシンチレータを設置した。</p> <p>0.2-2.0GeVのビームを使い、<math>\pi/p</math>に対する光量、シンチレータ中のハドロン反応、dを用いたシンチレータのクエンチングの測定を行った。</p> <p>データは解析中であるが、今後SciBar検出器本体をもちいた解析を行う上で基礎となる重要なデータを取得することができた。</p>			
<p>EXECUTED MACHINE TIME, BEAM CONDITION, DOWN TIME etc.</p> <p>K0ラインのマグネット不調のため3/5にビームがストップ、3/12に再開された。</p> <p>幸いにもT1ビームラインを使用するグループが他にいなかったため、再開後に予定のビームタイムを消化することができた。その他はビームは順調であった。</p>			
COMMENTS			